

チャレンジ！
野菜づくり
たくさん育て、
たくさん食べよう
タマネギ

板木技術士事務所 板木利隆

タマネギを切ると涙が出る原因の硫化アリルは、ビタミンB1の吸収を助けて新陳代謝を活発にし、コレステロールの代謝を活発にし、血液をサラサラにして動脈硬化や高血圧、糖尿病を予防する効果もあります。近年明らかになったところによると、野菜の中では最も細菌病、大腸菌などを寄せ付けず、安全性では極めて優れていることが裏付けされています。

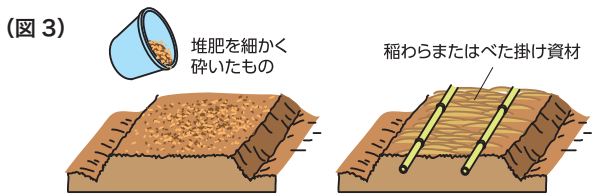
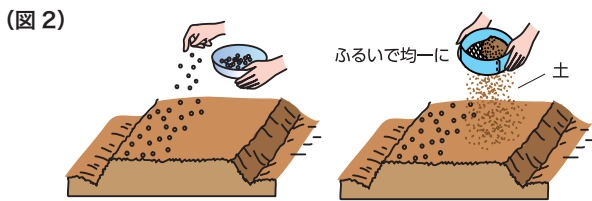
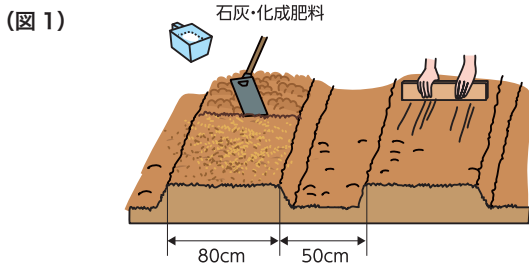
タマネギは病害に強く、毎年同じ畑でも作れるので、自家菜園の作付けにも大変便利です。貯蔵力もあり、使い道も幅広いので、たくさん育てることをお勧めします。家庭菜園では、通常晩秋に出来る苗を買い求めて育てる場合が多いのですが、タマネギは黄、白、赤の品種があり、収穫期の違う極早生、早生、中生、晩生と特徴のある数々の品種があります。

これらを上手に育て楽しむには、自分で好みの品種を選び、種子か

ら育てましょう。特に直売など販売を目的とする場合は、苗代の負担も大きくなってしまいます。

種まきの適期は、極早生8月下旬～9月上旬、早生9月上旬、中生9月中旬、晩生は9月下旬です。適期まきはとても重要なことなので、各営農センターにおたずねください。特に中晩生の品種を早くまき過ぎると、越冬するまでに大きく育ち過ぎ、「とっ立ち」(花をつける茎が伸び、根や葉に栄養がいかなくなること)として失敗してしまいます。

苗を上手に育てるには、苗床の前作を早めに片付け、種まきの20日以上前に完熟堆肥と石灰、化成肥料をよく耕やしておきます(図1)。(図2)トマト、ナスなどの強い根が残る野菜の跡地は避けてください。種まき前に丁寧に苗床の表土を



ならしてベッドを作り、約1～2cm間隔ぐらいに均一に種をまきます。その後ふるいで2～3mmほどの厚さに、まんべんなく覆土し(図2)、板切れなどで軽く表土をたたいて鎮圧し、その後ジョウロでたっぷり灌水します。その上に細かく砕いた完熟堆肥をごく薄く覆い、その後苗床全面を稲わらやべた掛け資材を二重に覆い(図3)、残暑や乾燥、台風や強風の被害から守ります。種まき後5～7日で発芽し苗が伸び始めたら、これらの被覆資材は取り除き、ジョウロでたっぷり灌水して生育を促します。

肥料・農薬のご紹介

タマネギの「べと病」に ベトファイター 顆粒水和剤(100g入)



タマネギ栽培で特に注意するべきなのが「べと病」です。べと病は予防が大切なので、定期的に防除する事が効果的です。



それでも発生するべと病には「ベトファイター顆粒水和剤」がオススメ。

◆主な特徴

- ① 長い効き目と高い予防効果で、持続的にべと病の発病を抑えます。
- ② 病気の出始めに散布しても治療的な効果を発揮し、進行を抑えます。
- ③ 優れた浸達・移行性があり、散布ムラに強い。

タマネギの葉は水を弾きやすいので、使用する際に展着剤を合わせて使うと効果が安定します。